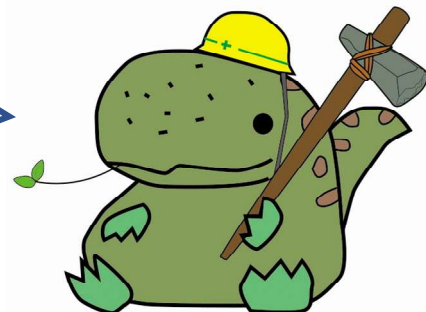


中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター
TEL0852-36-8608
江の川発掘調査事務所
TEL0855-52-7685

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせです



しものほら 森原下ノ原遺跡（江津市松川町八神）

5月から開始した江の川河川改修事業に伴う発掘調査も約2ヶ月が経過しました。暑い日が続く中発掘調査を行っています。本号では、昨年度からの引き続き調査をしている1区の調査が終了しましたので、その成果をご紹介します。

縄文時代後期（約4,300年前）の集落跡を確認しました。住居の跡ははっきりと確認できていませんが、火を使った痕跡などがあり、縄文人がこの場所で生活していたと考えられます。遺物は土器が大量に出土し、中には関東や九州地方との関係が考えられるものもありました。また、作製途中の石器が集められた状態で見つかり、この場所で石器を作っていたと考えられます。江津市周辺では森原下ノ原遺跡と同じ時期の遺跡がいくつか調査されており、江の川流域の縄文時代の様子がより詳しくわかる貴重な成果となりました。

今後は確認した遺構や遺物を詳しく検討し、遺跡の時期や性格を明らかにしていきます。

おねがい

調査中の遺跡は深く掘り下げた部分があり、大変危険です。事故防止のため調査区内に立ち入らないようにお願いします。

見学を希望される方は上記発掘調査事務所までご連絡ください。



発掘調査箇所の位置

～縄文時代の集落の様子～



火の熱を受けて地面が赤く変色しています。その上には炭や動物のものと考えられる骨が含まれる砂が溜まっていた。この場所で料理をしていたのかもしれない。

長径約1.9mの楕円形の穴です。中から多くの土器が出土しました。形や大きさから墓の可能性も考えられます。当時の墓は現在のような墓地をもたず、集落の中に作られることが多いようです。

交流の様子が見える？！

森原下ノ原遺跡では地元ではみられない土器や石器の石材が多く出土しました。この場所が様々な地域のものが集まる交流の拠点となっていたと考えられます。

九州地方の土器

粘土に滑石を混ぜてツルツルさせるのが特徴



山陰地方東部の土器

頸部に細く細かい線が入るのが特徴



関東地方の土器

縦方向につながる模様が特徴



四国地方の土器

渦巻模様などを赤彩することが特徴

